

大腸内視鏡検査 説明・同意書

湘南茅ヶ崎クリニック

- 大腸の病気を調べるために内視鏡による検査を行います。必要な場合は、引き続き内視鏡下にポリープの切除などの治療も行います。
- 内視鏡検査に使用する機器の適正な選択と検査後の消毒のため、事前に感染症の血液検査(B型肝炎、C型肝炎、梅毒)をさせていただきます。検査の結果は個人情報保護法により厳守いたします。
- 検査を行うための下剤等の服用や食事の制限があります。便が大腸に残っている場合には、浣腸や洗腸を追加する場合があります。
- 検査を行う前に、消化管の運動を止める注射などを行います。前処置で使用する薬剤でアレルギー反応を起す場合があるので、以前に手術・けがの処置・歯科処置の麻酔で体調が悪くなった事のある方は前もってお知らせ下さい。心臓病・緑内障・糖尿病・前立腺肥大症・腎臓病などの既往や治療中の方は必ず前もって医師・看護師にお伝えください。また、血液を固まりにくくする薬を服用している方も事前にお知らせください。
- 前処置に使用する薬剤や鎮静剤の影響で目がチカチカしたり眠気・ふらつきが残ることがあります。このため、検査当日は自転車・バイク・車等の運転はしないでください。鎮静剤を使用した場合は、検査後に身体の状態を観察し医師が安全を確認した後に帰宅することになります。できるだけ同伴者と一緒に来院してください。
- 検査中に、必要に応じて病変の性状の評価をするために組織検査(生検)やポリープ切除をする場合があります。生検やポリープ切除を行った場合は、検査当日は激しい運動や刺激物(アルコールや香辛料の強い食べ物)の摂取をひかえてください。なお、心臓や脳血管などの病気で抗凝固薬・抗血小板薬(血をサラサラにする薬)を常用している方は、必ず検査予約時または検査当日に医師にお伝えください。内服を継続している場合は、生検やポリープ切除をすると出血が止まらなくなることがあるので、観察のみとなります。
- 検査が原因で腹痛が起きることがありますが、通常は1~3日で消失します。検査による重篤な合併症として、出血・消化管穿孔があります。日本内視鏡学会の統計では、大腸内視鏡検査の重篤な合併症発症率は約0.04%とされています。重篤な合併症が起きた場合は、再検査・内視鏡的止血術・輸血・外科手術などが必要となりますので、速やかに総合病院と連携し治療にあたります。また、検査終了後に血便が出た・腹痛が持続するなどの症状が有りましたら、当院にご連絡ください。大腸ポリープは形・大きさにより、内視鏡的切除ができるものと困難なものがあります。切除にあたってはご本人の同意が必要となります。切除が困難なものや切除による出血のリスクが高いものについては総合病院へ紹介・治療となります。切除後1週間は出血・穿孔などの合併症の可能性(切除病変の約0.2%)があるので、激しいスポーツや旅行、過度の飲酒はしないでください。切除後に腹痛や血便が続くときは、速やかに当院を受診してください。

【基礎疾患】 心臓病(狭心症、弁膜症、不整脈) 慢性腎臓病 慢性肝炎・肝硬変
脳梗塞 血液疾患() 緑内障 前立腺肥大症

【抗血小板薬・抗凝固薬の内服】 無し 有り(薬剤名:)

【大腸内視鏡検査に対する同意】

説明医師: 只左 直也

説明日:

大腸内視鏡検査についての説明を受け、内容を理解した上で検査を受けることに同意します。

平成 年 月 日

患者氏名:

親族・代理人氏名:

(続柄:)

親族・代理人の緊急連絡先: